

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	島ラジオを通じた地縁型コミュニティ形成とシマに対する誇り・愛着の醸成
対象地域	奄美群島及び奄美出身者の居住する全国各地域
活動概要	<p>平成19年5月に「奄美大島と島人が持っている多様な価値を島人自身が再認識する」、「人と人との繋がりを『結い』を大切に、シマの価値を創造する」、「次世代へ向けてシマの素晴らしさを伝える」ことを目的に島ラジオ「ディ！ウェイブ」が開局した。</p> <p>現在、奄美大島の奄美市と龍郷町でラジオの受信が可能だが、奄美大島以外の奄美群島から奄美市に移住した人、奄美大島から大阪や東京などの群島外に移住した人など、多くの奄美出身者の間では、行政の枠を超えた情報（イベント情報、災害・慶弔情報、ローカル新聞等の報道）の共有や人と人との繋がりを求める声も多く見られる。</p> <p>そこで、奄美市および周辺部のみで放送されている島ラジオをインターネット等のICTを活用して広域に放送し、居住地が遠く離れていることで失われつつある地縁型のコミュニティを再生するとともに、シマ（島・集落の意）の在住者と出身者双方による情報共有によりシマに対する誇り・愛着の醸成を実現することを本事業の目的とする。</p> <p>また、経済的な自立が求められている奄美大島の人口は7万人程度であるが、群島全体や出身者を含めた場合、その規模は数十万人と想定されるため、これらの地縁者を含めたコミュニティを基盤として人的支援や資金提供等の支援体制を確立し、物販やサービス提供などの離島の産業振興を推し進めるための内発的発展のきっかけを作っていく。</p>
今年度の主な取組	<p>①奄美市内居住者・奄美群島居住者・シマ出身者が欲している情報内容の調査 島の居住者や出身者の属性、嗜好、生活パターン等の違いによる必要としている情報内容をアンケート調査やヒアリング調査によって把握し、インターネットラジオで配信していくべきコンテンツの整理を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奄美市内居住者→ラジオ番組による意見聴取およびヒアリング調査により実施</li> <li>・奄美群島居住者→群島各市町村の青年団等を対象としたアンケート調査により実施</li> <li>・シマ出身者 →全国の奄美会を介したアンケート調査により実施</li> </ul> <p>②群島のネットワーク環境の調査及び提供可能な伝達手段に関する調査 奄美群島におけるインターネットの利用環境（ネットワークの整備状況、居住者のネット利用状況）を調査するとともに、ネットワーク未整備地域やICTに不慣れな高齢者等に対しては、インターネット以外の情報伝達方法を検討する（ラジオの放送内容を記事にして「かわら版」として配布するなど）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奄美群島のネットワーク環境→群島各市町村を対象としたアンケート調査により実施</li> </ul> <p>③インターネット及びその他情報伝達手段を利用したラジオ放送の実証実験 上記①及び②の検討結果をもとに、平成20年度では年末等のイベントに合わせた試験的なラジオ放送やインターネットを通じた奄美の正月料理等の物販実験を行う。実証実験にあたっては、放送するコンテンツの取材等を地元の住民を中心に行う。（例えば、地元の小学生が集落の高齢者に奄美の伝統的な正月料理について取材し、ラジオを通じて発表するなど。）</p>
活動結果	<p>即時性がありつつ、聞く側にとっては時間と場所を選ばず、いつでも奄美の様子を知ることができるWebRadioの有効性やニーズについては、ラジオ放送の実証実験に対する反応からも明らかになったといえる。</p> <p>「ありのままの奄美」を伝えるという基本路線は再認識したが、島出身者が必要としている奄美の細かな情報（慶長情報、防災情報、就職情報等）と、島民が考える「ありのままの奄美」との間には少なからずギャップがあるように見られる。また、その際には「島ことば」や「お年寄り」といったキーワードが重要になると考えられる。</p> <p>インターネットの双方向性といった特性を活かして、島出身者の移住先での活動や想いを島にフィードバックして伝えるための方法等については、まだアイデアレベルに留まっていると感じており、今後の検討が必要である。</p> <p>島外のリスナーをあまり意識せず、なおかつ興味を持ってもらい、島内・島外の交流機会を提供するためのツールとしてのWebRadioのあり方についても、引き続き検討していく必要がある。</p>

<p>当初予想していなかった効果</p>	<p>もともと「ありのままの奄美」を伝えることを基本方針に島ラジオの放送を始めたが、意見交換会においても島内の参加者自らが同じ考えを持っていたことに驚きと嬉しさを感じた。</p> <p>全国の離島や中山間地に言えることだが、外向けに取り繕った演出はいずれ見る人や聞く人に飽きられてしまう。その地域の独自性を全面にPRするには格好付けずに「ありのまま」の面白さを表現するのがよいと感じた。</p> <p>想定外という程ではないが、島出身者の欲する情報は生活に密着したかなり細かな情報が多く、前述の課題のとおり島民との若干のギャップが見られた。島を離れた人々が常に島を意識してくれていること、また数年すると島に戻ってくる人が多いことが要因と思われる。</p> <p>奄美では大学等がないため高校卒業後9割が内地へ出てしまうのが現状。そういった中、愛郷心も強く奄美会などの同郷団体も各地に多く活動も活発である。そういった奄美出身者に対し、本事業で行うことができたネット放送で、内地の奄美出身者から予想以上の反応があり、「伝える」ことの大切さを実感した。</p> <p>またコミュニティFMならではの放送サイドとリスナーの意見を「双方向」のやりとりが電波とともに更にネット上で実現ができたことは、エリア拡大はもちろん、奄美の人々を繋ぐ画期的な出来事と感じた。</p> <p>更にネット放送を活用し、島の行事などの情報や歴史・文化、島での社会や教育などの現場で起きている様々な問題について伝え、ともに考えたく、内地から見た奄美への想いや提言等をやりとりできることによって、今後のアイデンティティ形成や島興し活動のテーマをしっかりと意識、掲げることのできる大変すばらしい機会と思っている。</p> <p>また今後も、「伝える～伝わる～興す」という流れができ、島で生まれ、育ち、営み、繋ぐ、人々とともに「奄美」を感じ考えて、更なる可能性の拡がりを期待し、活動していきたいと思っている。</p>
<p>実施状況(写真)</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">【写真】唄はエネルギーの源 地元ライブハウスでの意見交換会の様子</p>
<p>応募団体名</p>	<p>特定非営利活動法人 ディ</p>
<p>リンク</p>	<p><a href="http://www.npo-d.org/pc/">http://www.npo-d.org/pc/</a></p>
<p>部局／担当者名</p>	<p>事務局長 丸田 泰史</p>
<p>連絡先</p>	<p>0997-57-6366</p>
<p>推薦市町村名</p>	<p>鹿児島県奄美市</p>